笑顔で伸びやかに夢に向かって
大好きです！　砥用小
～学びの姿と元気を地域へ発信！～

R6, 7, 19(金)

美里町立砥用小学校学校だより

１学期終業式、今日で1学期が終わりました！

4月、桜の花が風に舞い散り、鶯の鳴き声もぎこちない季節からスタートしました。今、とても暑い日が続き、鶯の上手な鳴き声以上に、セミのせわしい鳴き声が響く7月です。1学期は、授業日数が71日間(1年生は70日間)ありました。4月9日(火)の入学式、とても初々しかった1年生。学習の様子を見に教室に行くと、きちんと席に着き、担任の話に良く反応し生き生きと学習している姿があります。小学校に入学し、どの学年よりも生活の変化が大きかった学年です。70日間での成長に驚きます。それぞれの学年の子ども達も、1学期、学習，生活の両面において、様々な活動に一所懸命に取り組む姿を見ることができました。保護者の皆様には、「わたしがつくる　みんなでつくる『大好きです　砥用小！』」のもと、ご協力いただきありがとうございました。夏休み、子ども達が、命を大切に健康に過ごすことができるよう、よろしくお願いします。

先日、「子ども達の『1ミリの成長』(東野昭彦(株)耕せ・にっぽん代表取締役　大阪府生まれ。北海道でテレビショッピングキャスターを務め、通信販売会社を設立。34歳で講演家・中村文昭氏の話に感銘を受け、同氏とともに「元気のない若者に勇気を」と、ひきこもりの若者と農業を始め、これが現「耕せ・にっぽん」の自立支援事業へつながる。現在は、「ひきこもり不登校支援人材育成協会」会長として、相談指導員認定講習なども行う。)という記事を読みました。(日本講演新聞 2024 年(令和 6 年)7/8(月) 3031 号 宮崎中央新聞社)

一部紹介します。どんなことを考えますか。

子どもが成長し、自立できる子育てのポイントは次の「三つの視点」だと僕は思っています。

一つ目は「信じる視点」です。

子どもが何か自分で決めると、親は「大丈夫なの？」と心配して口を出してしまいがちです。しかし、これは子どもにとっては不信感を伝えられたように感じられます。子どもを信じて任せて、失敗したら一緒に受けとめてあげたらいいと思います。

二つ目の視点は「過程の思いを大切にする」です。

成功しようが失敗しようが、子どもが自分で選択したこと、努力したことをしっかりと認めてあげるんです。

悪いことを叱る場合もそうです。友だちに手を出してしまった。彼は単に相手を傷つけようとしたのか、誰かを守ろうとしたのか、それぞれ「殴った」という結果は同じでも、大違いですよね。その「過程の思い」を大事にしてください。

三つ目は「ありがとうの視点」です。僕は「耕せ・にっぽん」を一緒に始めた講演家、中村文昭さんの「人を喜ばせることこそ人生」という言葉に衝撃を受けて人生の指針が一変しました。

だから、子どもたちにも「困っている人に寄り添ったり、周りを喜ばせたりして、『ありがとう』と言ってもらえる人になることが大事だよ」と教えています。

また、僕たち大人が、子どもたちへの「ありがとう」を見つけることも大切です。

「耕せ・にっぽん」で、子どもたちに農作物収穫のイベントを任せた時のことです。

100人ぐらい参加者が集まったのですが、いざ当日になっても何も用意されていませんでした。

駐車場係がいないから道路は渋滞、誘導係もいなければ昼飯の準備もされていない。指示を出さないといけないリーダーはお客さんをトイレに案内するのに行ったり来たりしているだけ。他の子たちはお客さんと喋っています。

仕方なく僕が仕切ってイベントを終わらせました。

内心僕はすごく腹が立って「これは、はっきり言わないと」と思っていました。それで打ち上げ準備をしていた時に、前に出て「あのな……」と話し出しました。

すると文昭さんが割って入ってきました。そして、「みんな、よう頑張ったな。完璧やったぞ。カンパーイ」と言ったんです。僕はそれにもすごく腹が立って、彼を呼んで「文昭さん、あんな仕事で「完璧だったなんて言わないでください」と言いました。

すると、彼は言いました。

お前とこに目つけてんねん。人の目を見て喋れなかったあの子が、参加者に「芋は実ではなく茎なんですよ」と教えていただろう。

ガリガリで体力のなかった女の子が、30キロのジャガイモを一生懸命汗をかきながら運んでいたよな。それに、リーダーのあいつは初めて俺と会った時、面に唾を吐いたんだぞ。そんな子が帰る人に「ありがとうございました」と言って、涙を浮かべていただろう。

人の1ミリの成長を見つけられへん、やつは、この仕事をやったらあかん。

話を聞きながら、涙が止まらなくなりました。「耕せ・にっぽん」は、人を成長させるために作りました。だったら、子どもたち自身が、少しでも自分の成長を感じられることが大切だったんです。

その後、「耕せ・にっぽん」では1日の終わりに、お互いの長所を見つけ出し、発表するようにしました。

ささいなことですが、「ありがとう」と言われる喜びを、子どもたちに実感してほしいと思っています。

全部の記事の四分の一、三つの本文話題の中の一つの話題紹介ですので、なかなか、東野昭彦さんの意図や思いを慮ることは難しいと思います。しかし、「信じて任せること。失敗は、次のチャレンジの糧となる。」、「過程の思いを大切に」、『ありがとう』と言ってもらえる人に。また、『ありがとう』を見つける心の目をもつ」という、子どもが成長し、自立できるポイント三つの視点は、参考になるのではないでしょうか。明日からの夏休み、ぜひ、子ども達に、信じて何か任せてみて、過程の思いを大切にし、ありがとうのシャワーを降り注いでみませんか。

私は、「人の1ミリの成長を見つける」➡「子ども達の1ミリの成長を見つける」ことのできる教職員」と置き換えて読みました。